

C-1

自得型テモラウ文の意味・用法について

朱冬冬(関西外国語大学大学院)

1. はじめに

V-テモラウが表現している事態の取得は、何れもガ格求心的であるが、動作主の動作の指向性からして、必ずしもテモラウ主体(S1)を対象にして生じているわけではない。今まで、テモラウの意味用法について、例(1)は働きかけ性のある<依頼型>、例(2)は働きかけ性のない<受影型>と、先行研究(李 2001; 山田 2004 など)では明確に位置付けている。依頼も受影も、動作の指向性は、何れも主体を直接に対象としている。そして、V-テモラウ事態は、何れも「連絡を入れる・助ける」といった場合のように、二格の動作主(S2)の実際の行為(S2V)と一致しているのである。

(1) あたしたちは、土屋さんに頼んで、石田さんの携帯電話にも連絡を入れてもらった¹。(『夢のつづきでつかまえて』)

(2) 隣村からの帰り道、カトリはいじめっ子に取り囲まれた。困ったなと思ったが、たまたま通りかかった馬車に助けてもらった。客は愛想のいいお婆さんだった。(『牧場の少女カトリ』)

それに対して、例(3)の動作主の動作の指向性は、ガ格を対象と限定していないのが分かる。そして、V-テモラウ事態と実際に生じている事態にずれが存在し、V-テモラウ事態の達成はガ格にとって極めて間接的で、自得的である。このようなテモラウの使い方は、今まであまり主題として取り上げられていない

(3) 今日はお昼を巡礼名物親父パブロの所で食べる予定なのに、早く着いてしまう。パブロは陽気なおじいさん。巡礼を歓迎するために、中世の巡礼の姿をして迎えてくれる。巡礼は彼のレストランで羊を食べて、元気も分けてもらう。私たちがここでお昼をと考えたのだ。(『サンティアゴ巡礼へ行こう!』)

ようである。本発表では、動作の指向性が依頼・受影のように直接的であるV-テモラウ事態を、<S2V型>と仮称し、例(3)のような間接的に達成されるV-テモラウ事態を<非S2V型>と仮称する。本発表は、BCCWJ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(通常版、BCCWJ-NT)の実例を基に考察し、どのような場合は、自得的になりやすいかを明確にすることを目的とする。

2. <自得型>テモラウ文

本発表では、通常のV-テモラウが示すような二格の動作主の実際的な行為や心的状況を指示したり表現したりするものではなく、主体自身の体験や動作主によって引き起こされた事態を、テモラウ主体であるガ格が、ある捉え方をして初めて成立するテモラウ文を、<自得型>テモラウ文(以下、<自得型>)と仮称する。動作の指向性は間接的であり、実際に生じている事態とV-テモラウが表現している事態とは一致しないのが基本的な特徴である。本発表では、事態の成立的な特徴から<依存型><契機型><自得と受影に揺れ動くタイプ>の3つに分類している。

2.1 依存型

<依存型>とは、主体には予め事態実現の意図が存在するが、V-テモラウ事態は、働きかけが不可能なタイプであるため、その実現に当たって特定な環境に依存しない限り、事態が成立しないものである。

(再掲3) 今日はお昼を巡礼名物親父パブロの所で食べる予定なのに、早く着いてしまう。パブロは陽気なおじいさん。巡礼を歓迎するために、中世の巡礼の姿をして迎えてくれる。巡礼は彼のレス

¹ 下線について、直線は実際に生じている事態、破線は自得する事態と、それぞれに引いている。

レストランで羊を食べて、元気も分けてもらう。 私たちもここでお昼をと考えたのだ。 (『サンティアゴ巡礼へ行こう!』)

(4) この地には世界の中心であることを示すオムパロス (へその意味) という石が置かれてあったが、オレステスはその上に座った。 それから予言の神アポロンによって血の穢れを清めてもらった。 しかし彼の重い罪までが消滅したわけではなかった。(『ギリシア神話物語』)

(5) 「親はずっと生きていてやれない。だから十八歳になったら親元を離れて大学へ行き世間に育ててもらいなさい!」ということだった。(『財界』)

例(3)は、レストラン側として主体の注文した羊料理の提供だけとしか考えられないが、ガ格は、パブロの出された羊料理を食べて、彼の明るさとも思わせる振る舞いを実際に体験することによって元気が得られると捉えている。例(4)は、二格が非実在的な動作主であるため、「血の穢れを清める」事態もオムパロスの石に座る状況を自ら設定して、予言の神によって血の穢れを清められると、自得する。例(5)は、大学という環境に入り込み、様々な苦勞を体験することを「世間に育ててもらおう」と、主体は解釈している。例(1)の依頼型と類似する文構造であるが、主節のV2(例→元気を分けてもらう)は、例(1)「連絡を入れてもらった」のように直接に働きかけられないし、動作主による達成も不可能であるため、事態達成への準備段階から事態達成までは、すべて主体の意図的な行為を通じて、事態が達成されたのである。したがって、V1(→食べて、座る)も依頼型のテ節「頼んで」と違って、相手の行為を引き起こす働きかけ性がなく、手段としての機能を果たしているだけである。つまり、主体の単独的な行為を通じて、動作主の行為を勝手に感じたり想像したり、自分なりに解釈してV-テモラウ事態を達成させるのである。また、主体が自ら事態を達成する準備を行う状況を作ることが特徴的であり、文中には、「彼のレストラン」「オムパロスという石」「大学」といった依存場所が現れ、そこに行けば事態を実現しやすく、典型的な状況依存型の自得のタイプと言える。事態に間接的に影響される点からして主体は受け手の立場にあり、受身文と交替できる、という特徴を持つ。

2.2 契機型

<契機型>とは、事態出現後のテモラウ主体の再認識を、V-テモラウを用いて表現している。<依存型>と同様に、事態の性質からして間接受影であるが、主体がそう評価したり思わせたりするきっかけが文に現れたり、主節では、事態実現後の主体の性質付けや、評価的な捉え方が中心となり、状況設定はあまり現れない点で異なっている。その中、いくつかのタイプが存在し、区別する必要がある。

2.2.1 有情・無情物型

有情・無情物型の場合、動作主が明確に存在しないため、動作主に教えるや主体が学ばせる行為は実際に存在するわけではない。何れも出来事をきっかけに主体にそう思わせたと、契機の特徴を示している。

(6) 雪山童子の話は 雪山 (Himalaya) に修行した釈迦が、羅刹より「諸行無常 是生滅法」という偈の半分を聞き、残りの半分「生滅滅已 寂滅為樂」という偈を、自分の身と引きかえに教えてもらった。 そして約束どおり羅刹の前に身を投じた時、羅刹は帝釈天となって釈迦の体を奉持した。(『枕草子女房たちの世界』)

(7) 夏の富士山は、雪がない、秋の富士山は、少し雪がある、冬の富士山は、雪化粧の通り。そうなんです、富士山は見る場所、時によって色んな富士山が見れる。新幹線から見る富士山、富士急ハイランドから見る富士山、富士五湖、の河口湖、山中湖、西湖、精進湖、本栖湖のどの湖からも見え方は違う。 富士山から学ばせてもらった。 (Yahoo!ブログ)

(8) 哲学関係の本には考える事の重要性を教えられ、地理関係の本には世界各地の珍しい風物を教えてもらった。この時読んだ本の影響か、僕は何時かは世界一周旅行をしたいという夢を持っている。
(『ぼくはこんな本を読んできた』)

(9) 数ヶ月に1度の夜の打ち上げは、タイの留学生自慢の手作りトムヤンクン。こんな感じかな??
僕、なんにもしていなかったけど、いい雰囲気を見せてもらった。(Yahoo!ブログ)

例(6)は、実際に生じている事態は、釈迦が雪山(Himalaya)に修行したことである。そして『生滅滅已、寂滅為楽』という偈は、実際に二格によって教えられたのではなく、自身の体験によって悟ったものである。例(7)(8)は、形式的に「富士山が私に学ばせた」「地理関係の本が私に教えた」と構文的に解釈できるが、動作主は、典型的な人間ではない無情物であるため、直接に働きかけることは不可能である。例(7)は、異なる角度から富士山を見る体験によって物の見方が変わることを富士山から自然に学び取ったと捉え、V-テモラウが成立することになる。例(8)は、本を読むことを通じて学び取る。これもガ格が読書などの経験を通じて、人間以外の二格の動作主から教えてもらったと自得するのである。例(9)も同様で、打ち上げパーティーという体験がよい雰囲気と思わせたのである。つまり、有情・無情物型は、ある体験を経て自然に、主体がそう捉えるようになったと指摘できる。

2.2.2 有情・有情物型 I

有情・有情物型 I のV-テモラウ事態は、主体の働きかけで生じた動作主の行為ではなく、二格の行為を眺めて評価することによって成立するテモラウ文である。したがって、<依存型>と<有情・無情物型>と違って、主体の行為(SIV)というより、動作主の行為(S2V)が中心に現れる。したがって、主体にとってより受身的である。

(10) 面倒見のいい男だったから、ずい分、甘えさせてもらった。酒も飲ませてもらったし、人も紹介してもらった。そうやって付き合っていくうちに、彼は、ポツリポツリと、自分のことを話してくれた。(『アニバーサリー・ソング』)

(11) 「2年生から参加したインターンシップでの経験が就職活動にとっても役立ちましたし、センターには精神面ですごく助けてもらった。愚痴を聞いてもらったり問題点を指摘していただいたことは本当にありがたかった。内定を取るまでモチベーションが下がらなかった(『AERA (アエラ)』)

(12) キャンプの最初の日から、モラービトは本当によくしてくれました。チームで唯一のレッジョノ(レッジョ人)で、兄弟みたいに受け入れてもらった。レッジョの方言や悪い言葉もすぐに教えてくれたし。インタビューでもぼくのことをすごく褒めてくれました。(『Shunsuke』)

(13) ある日気が付くと、中国からハワイまで流れ着いていて、大きすぎる身体をもてあましていた時に、ハワイの人に優しくしてもらい、大きな身体に合わせた中国の帽子、チャイナマンズ・ハットを作ってもらった。(『アロハ・エア』)

(14) 私の同級生が、年上の女と深い関係になりましてね、(中略)「とにかく、友人は、田舎から出て来て、淋しかったから、この女に近づいた。その男は末っ子で静かな男でしてね。何となくいつも他人に甘えていたいような奴だった。女も、彼を好きは好きだったんだろうけど、利用した節もある。亭主が女を作って逃げた後の、空虚さを彼に埋めてもらった。二人の娘たちの勉強を見てもらうことまで彼にさせた。それだけ利用したんだから、もういい加減、放してやれ、と僕は言ったんです。(『慈悲海岸』)

例(10)は、出来事として「酒も飲ませてもらったし、人も紹介してもらった」は存在し、それがきっかけで結果的に、主体はトータル的に自分が「甘えさせてもらった」と受け止めたのである。「酒も飲ませて

もらったし、人も紹介してもらった」は、言語的な依頼が可能とするのに対し、「面倒見のいい男だったから、ずい分、甘えさせてもらった」はより受影的であると、異なる意味を示すテモラウ文が並列しているタイプになる。例(11)も同様に、愚痴を聞いてもらったり、問題点を指摘していただいたことを、間接的に「精神面ですごく助けてもらった」と、主体はそう捉えている。例(12)(13)の「親切にしてもらった・兄弟みたいに受け入れてもらった」も、自分に対して行われた相手の一連の行為を、ガ格自身が親切に感じた、兄弟みたいに受け入れたと捉えたのである。例(14)も、空虚さを埋めるように働きかけたり、動作主が一方的に埋めたりしたわけではなく、実際に生じた出来事は、動作主が主体に近づいたり二人の娘の勉強の世話をしたりすることである。それを表現主体が再解釈して「空虚さを彼に埋めてもらった」と自得するのである。何れも主体の捉え方を示す主節は、自得型であるのに対して、実際に生じた動作主の行為は、主節の成立要因になっている。

以上、考察したように、＜依存型＞、＜契機型＞の2タイプはともに、V-テモラウ事態が主体の自得となり、非S2V型の間接受影的な事態である。

2.2.3 有情・有情物型Ⅱ

例(15)(16)の試合と行法は、何れも個別のテモラウ主体に関係なく、規定通りに進行する事態である。V-テモラウ事態の成立は、ガ格の見ようという意志によって達成されたものであり、自得的である。動作主の行為がそのまま目に入ってきた点から言えば受影的である。例(17)は、「ますみ」を観察し、性質付けを行っている。例(18)は、相手が悩んでいる状態や行っていることを目にして、それを相手の「苦悩をつぶさに見せてもらった」と表現している。

- (15) 試合、最初から最後まで見せてもらった。引き締まった本当にナイスゲームだった。「雑音」の中、本当に良く頑張ったと思う。(Yahoo!ブログ)
- (16) 私は十一日の夜、松明の登廊を見てから、外陣に入り、それから礼堂に入れてもらって、初夜の行法も、もちろんかいま見るといふ見方ではあったが、見せてもらった。(『井上靖歴史紀行文集』)
- (17) 正直、ほっとした。ますみには、おとなしやかな外見からは想像もつかない、情熱的などころを見せてもらった。隠されていた内面を、乱が引き出したと言えるかもしれない。(『一角獣秘宝伝』)
- (18) ダッカ・ハイジャック事件のときは、私は法務省刑事局長。一週間徹夜で首相官邸につめ、福田赳夫総理、園田直官房長官以下の苦悩をつぶさに見せてもらった。最後まで超法規的釈放に反対した福田一法務大臣は事件直後辞任された。(『人は死ねばゴミになる』)

2.3 自得と受影に揺れ動くタイプ

テモラウ文には、自得と受影に揺れ動くタイプが存在する。但し、例(19)の自得型でも、間接受影ではなく、直接受影寄りの＜自得型＞と言える。

- (19) 赤ちゃんのとき、冬の日に遊びに行ったら、パンツ一枚の私を、「こんな薄着で風邪でも引かせたらどうするの!」と、母を連れて洋服屋へーは普通の発想。我がグランマは一筋縄では参りません。裁縫道具を取り出すと、あっという間にあったかパンツを縫い上げてしまったのでした。女流名人の祝賀会壇上、立ち方が美しくないと、ささ一と舞台の袖に来て鬼のような形相で、「いちよっ!! 足!!」と手本を見せながら叱ってくれた。初孫だったからとっっても可愛がってもらった。(『天辺』)
- (20) 「きがるっちが私の事をすっごく心配して聖教新聞を取ってくれたから、それを読んで私は精神的に安定するようになったし、また周りの人にも自分の事を伝えて助けてもらえたし、母のような

友人にも、Aさんにも助けてもらったし、母にも助けてもらった。そして先生の指導にも助けてもらった。実は私、自〇を考えていたんだ。く〇まに飛び込もうと思っていたの。」彼女の自〇を考えていた事にびっくりしました。その彼女はさらに、「私は今、生きていること自体が奇跡なんだね！ 功德なんだね！ すべて私の命を助けるために動いていた事だったんだね！！」私もいままでの事が彼女の命を救う事だとは思っていませんでした。「嬉しいよ。私、命がある事が嬉しいよ！ 皆に感謝するよ。本当に感謝の祈りをするよ！！」（Yahoo!ブログ）

(21) 末の娘ということで、父にはことさらに可愛がってもらった。いつも膝に乗って、昔語りをしてもらった。（『清明ふしぎ草子』）

(22) 父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちゃって、平田さんに親切にしてもらった。（『父ちゃんはナンバーワン！』）

例(19)は、「風を引くことを心配してパンツを縫い上げる」ことと、叱ってくれたことを「可愛がられた」と解釈している。自得的である。それに対し、例(21)は、動作主の行為は、直接テモラウ主体に作用を及ぼしているので、直接受影の<受影型>と見る。例(20)は、複数の人間がしてくれたことを精神的な安定につながって、「命を助けてもらった」と主体が表現している。しかし、中には、「彼女の自〇(→自殺²)を考えていた事にびっくりしました。(中略)私もいままでの事が彼女の命を救う事だとは思っていませんでした。」と、主体の自得に対して、動作主の否定的な心理を綴っているものがあり、自得と受影の両方に捉えられる例であるが、例(2)の「助けてもらった」は、直接受影である。例(22)も同様な解釈になる。

3. 依頼型と受影型との比較

次は、<自得型><依頼型><受影型>の三者の違いをさらに明確にする。

3.1 依頼型との比較

<自得型>は、動作の指向性とV-テモラウ事態と動作主の行為との一致性で<依頼型>と異なっている。そして、<依存型>は、依頼型の間接働きかけの<状況設定型>に類似する側面があるが、V-テモラウ事態が異なるため、自得型は何れも依頼型と違って、使役文と交替できない。

(再掲3) (前略)巡礼は彼のレストランで羊を食べて、元気も分けてもらおう（『サンティアゴ巡礼へ行こう！』）<自得型>

(23) 浪人中は社会党執行部に在籍しながら、コツコツと色々な人たちや団体の世話をして、名前と顔を覚えてもらった。（『北神けいろの挑戦』）<状況設定型>

3.2 <受影型>との比較

<自得型>は、非働きかけが中心であるため、今までの分類の観点からすれば、受身に区分されやすいが、動作主が存在する受身の用法である<受影型>と異なっている。<受影型>には、恩恵(25)と非恩恵(24)があるが、何れも「手伝う・買う」のように働きかけようと思えば働きかけが可能な行為が中心である。そして、動作主の行為は主体にとっての<利益・不利益的な直接受影的事態>であるのに対し、<自得型>の事態は、「彼のレストランで羊肉を食べて、元気を分けてもらおう」「世間に育ててもらおう」のように、働きかけが不可能な事態が前提とするものが多い。そして、主体にとっての<間接受影的事態>が典型である。

(24) わたしとしては、あのひとに病院のことを手伝ってもらおうのは、有難迷惑なんですよ（『凍河』）

² 〇の部分は、コーパスでは具体的に示していないため、ここでは、筆者の判断によって付け加えた。

(25) それで私は自分を気の毒な貧乏人と信じていました。ですから、自転車を買ってもらったときの嬉しきときはありませんでした。どこに行くのも自転車。(『らくご小僧』)

3.3 三者の違いとヴォイスとの関連性

以上、三者の違いと特徴を以下にまとめる。

- 依頼型……直接・指示的 S2V 型事態：<S1V(働きかけ有)+S2V>⇒使役文・他動詞文と交替○
 ex, 土屋さんに頼んで、石田さんの携帯電話にも連絡を入れてもらった。
 ex, コツコツといろんな人たちや団体の世話をして、名前と顔を覚えてもらった。
 ex, 美容室に行き、カットしてもらう。
- 自得型……間接・非 S2V 型事態が典型⇒受身文と交替○
- (1) <依存型>……<S1V(働きかけ無)+S2V=S1の自得>
 ex, オムパロスという石の上に座って、神によって血の穢れを清めてもらった
- (2) <契機型>の有情・無情物型……<S1V⇒S1の自得>×S2V
 ex, 身を引き換えに教えてもらった・
 有情・有情物型 I ……<S2V⇒S1の自得>
 ex, 精神的に助けてもらった・空虚さを埋めてもらった
 有情・有情物型 II ……<S2V+S1V⇒S1の自得>
 ex, 垣間見る形で見せてもらった・苦悩をつぶさに見せてもらった
- (3) <自得・受影に揺れ動くタイプ>……<S2V⇒S1の自得・受影>
 ex, 自得(間接)→可愛がってもらった I (例 19)・受影(直接)→可愛がってもらった II (例 21)
- 受影型……直接・S2V 型事態<S2V⇒S1の受影> ex, 危ないところを助けてもらった ⇒受身文と交替○

4. まとめ

以上、<自得型>は、事態の持つ働きかけ性から典型的な<依頼型>と違ってはいるだけでなく、動作の指向性とV-テモラウ事態と動作主との行為との一致性の観点からも、<受影型>と違って、間接受影が基本である。したがって、「非達成の自己制御性を持つ事態」と<有情・無情物型>は、自得型になりやすい。そして、<契機型>は自得型の典型であるのに対して、<依存型><自得と受影に揺れ動くタイプ>は周辺型であると考察で分かった。今後、さらに考察の範囲を拡大して、自得型の特徴をまとめる。

参考文献

- 奥津敬一郎・徐昌華(1982)「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現—“請”を中心に—」『日本語教育』46, pp. 92-104.
- 久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店.
- 佐藤琢三(2005)『自動詞と他動詞の意味』笠間書院.
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版.
- 仁田義雄(1991)「ヴォイス的表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版, pp. 31-55.
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法2』くろしお出版.
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30-5, 大修館書店.
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院.
- 李仙花(2001)「『～てもらう』文の意味について」『言語科学論集』5, pp. 97-108.